

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載
【部門区分】第 1 部門第 2 区分
【発行日】令和 6 年 4 月 30 日(2024.4.30)

【公開番号】特開 2023-1811(P2023-1811A)
【公開日】令和 5 年 1 月 6 日(2023.1.6)
【年通号数】公開公報(特許)2023-003
【出願番号】特願 2021-102764(P2021-102764)
【国際特許分類】

A 6 1 F 13/49(2006.01)

10

A 6 1 F 13/532(2006.01)

A 6 1 F 13/535(2006.01)

A 6 1 F 13/494(2006.01)

A 6 1 F 13/534(2006.01)

【F I】

A 6 1 F 13/49 3 1 5 Z

A 6 1 F 13/532 2 0 0

A 6 1 F 13/535 2 0 0

A 6 1 F 13/494 1 1 3

A 6 1 F 13/494 1 1 1

20

A 6 1 F 13/534 1 1 0

A 6 1 F 13/535 1 0 0

【手続補正書】

【提出日】令和 6 年 4 月 19 日(2024.4.19)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

30

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

着用時に着用者の腹側に配される腹側部と着用者の背側に配される背側部とその間に位置する股下部とを有するとともに、該腹側部から該股下部を介して該背側部に延びる縦方向と該縦方向に直交する横方向とを有し、体液を吸収保持する吸収体を備えた吸収性物品であって、

前記吸収体は、前記縦方向において、該縦方向の剛性が互いに異なる高剛性領域と低剛性領域とに区分され、該高剛性領域は、該低剛性領域に比べて該縦方向の剛性が高い領域を含み、

少なくとも前記股下部における前記吸収体の前記縦方向に沿う両側部それぞれに、該縦方向に延びる弾性部材が、該縦方向に伸縮可能に配置されており、

40

展開且つ最大伸長状態の前記吸収性物品において、前記弾性部材における前記縦方向に伸縮可能な部分の該縦方向の両端部のうち、一方は、前記高剛性領域又は該高剛性領域の前記横方向の外方に存在し、他方は、前記低剛性領域又は該低剛性領域の該横方向の外方に存在し、

前記吸収体は、吸収性シートと、該吸収性シートの一部と厚み方向において重なるように配置された補助吸収層とを備え、

前記補助吸収層の前記縦方向の腹側端及び背側端は、前記吸収性シートの該縦方向の腹側端と背側端との間に配置され、且つ該補助吸収層の腹側端と該吸収性シートの腹側端との該縦方向の離間距離は、該補助吸収層の背側端と該吸収性シートの背側端との該縦方向の

50

離間距離に比べて短い、吸収性物品。

【請求項 2】

前記吸収性シートは、基材シートと、該基材シートの表面に配された吸水性ポリマーとを含む、請求項 1 に記載の吸収性物品。

【請求項 3】

前記吸収性物品の着用状態において、前記低剛性領域の前記吸収性シートにおける前記高剛性領域との境界又はその近傍に位置する部分に、肌対向面側に開口を有するポケット構造が形成される、請求項 1 又は 2 に記載の吸収性物品。

【請求項 4】

前記高剛性領域は、前記補助吸収層と平面視で重なる領域及び前記吸収体における該補助吸収層の前記横方向の外方に位置する領域であり、

前記低剛性領域は、前記吸収体における前記補助吸収層と前記縦方向において重ならない領域である、請求項 1 ~ 3 の何れか 1 項に記載の吸収性物品。

【請求項 5】

前記補助吸収層は、前記股下部に、前記横方向の長さが相対的に短い幅狭部を有するとともに、該幅狭部よりも着用者の腹側に、該横方向の長さが相対的に長い幅広部を有し、

前記幅広部における前記幅狭部寄りの部分は、着用者の背側から腹側に向かうに従って前記横方向の長さが漸次増加する、請求項 1 ~ 4 の何れか 1 項に記載の吸収性物品。

【請求項 6】

前記幅狭部の前記縦方向の長さは、前記幅広部の該縦方向の長さに対して、 1.5 倍以上である、請求項 5 に記載の吸収性物品。

【請求項 7】

前記弾性部材は、前記股下部から前記腹側部にわたって、前記高剛性領域と前記低剛性領域とを前記縦方向に跨ぐように配置されている、請求項 1 ~ 6 の何れか 1 項に記載の吸収性物品。

【請求項 8】

前記弾性部材は、前記股下部から前記背側部にわたって、前記高剛性領域と前記低剛性領域とを前記縦方向に跨ぐように配置されている、請求項 1 ~ 6 の何れか 1 項に記載の吸収性物品。

【請求項 9】

展開且つ最大伸長状態の前記吸収性物品において、前記弾性部材における前記縦方向に伸縮可能な部分の該縦方向の全長の 60% 以上が、前記低剛性領域又は該低剛性領域の前記横方向の外方に存在する、請求項 1 ~ 8 の何れか 1 項に記載の吸収性物品。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0042

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0042】

図 5 を参照して、補助吸収層 60 (第 1 コア 6) の幅広部 61 における幅一定部 61A の幅 W61 と幅狭部 62 の幅 W62 との比率は、幅 W61 > 幅 W62 を前提として、幅 W61 / 幅 W62 として、好ましくは 1.2 以上、より好ましくは 1.5 以上、そして、好ましくは 2.5 以下、より好ましくは 2.0 以下である。

幅一定部 61A の幅 W61 (すなわち補助吸収層 60 の最大幅) と、吸収性シート 70 (第 2 コア 7) の横方向 Y の長さ (幅) の最大値との比率は、前者 / 後者として、好ましくは 0.8 以上、好ましくは 1.0 以下である。

幅狭部 62 の幅 W62 (すなわち補助吸収層 60 の最小幅) と、吸収性シート 70 (第 2 コア 7) の横方向 Y の長さ (幅) の最大値との比率は、前者 \leq 後者を前提として、前者 / 後者として、好ましくは 0.5 以上、そして、好ましくは 0.7 以下である。

【手続補正 3】

10

20

30

40

50

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0044

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0044】

図7に示す吸収体5Aは、第1コア6を形成する補助吸収層60Aの平面視形状が長方形形状である点で、前述の吸収体5と異なる。また、高剛性領域51を挟んで縦方向Xの両側に低剛性領域52（補助吸収層60Aの非配置領域）が存在する点で、高剛性領域51よりも腹側に低剛性領域52が実質的に存在しない吸収体5と異なる。補助吸収層60Aを備えた吸収性物品によっても、基本的におむつ1と同様の効果が奏されるが、股下部Mにおいて吸収体用弾性部材53の収縮による吸収体5Aの縦方向Xに沿う両側部（第2コア7の一对の延出部7E，7E）の起立性を高めるとともに、前記排泄部対向部の液吸収性能を高めて、本発明の所定の効果を一層確実に奏させるようにする観点からは、股下部Mに幅狭部62を有し、幅狭部62よりも着用者の腹側（該排泄部対向部）に幅広部61を有する補助吸収層60の方が好ましい。

10

【手続補正4】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0048

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0048】

以上、本発明をその実施形態に基づいて説明したが、本発明は、前記実施形態に制限されることなく適宜変更が可能である。

例えば、前記実施形態では、吸収性シート70（第2コア7）は、補助吸収層60，60A（第1コア6）の非肌対向面側に配されていたが、補助吸収層60の肌対向面側に配されていてもよい。すなわち、第1コア6が吸収性シート70からなり、第2コア7が補助吸収層60，60Aからなる構成でもよい。

また、補助吸収層60，60Aは、肌対向面及び非肌対向面の少なくとも一方に開口を有する凹部を有していてもよく、該凹部は、補助吸収層60，60Aを厚み方向に貫通する貫通孔であってもよい。例えば、このような凹部を、股下部Mの補助吸収層60，60Aにおいて縦方向Xに延在させることで、吸収体用弾性部材53の収縮による吸収体5の縦方向Xに沿う両側部（第2コア7の一对の延出部7E，7E）の起立性が一層向上し得る。

30

また、前記実施形態では、外装体10が腹側外装体と背側外装体とに分離して形成された形態であったが、これに代えて、外装体10は、腹側部Fから背側部Rにわたって連続的に延在する形態であってもよい。

前述した一の実施形態のみが有する部分は、全て適宜相互に利用できる。

【手続補正5】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0053

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0053】

<17>

前記補助吸収層は、前記股下部に、前記横方向の長さが相対的に短い幅狭部を有するとともに、該幅狭部よりも着用者の腹側に、該横方向の長さが相対的に長い幅広部を有し、

前記幅広部における前記幅狭部寄りの部分は、着用者の背側から腹側に向かうに従って前記横方向の長さが漸次増加する、前記<5>～<16>の何れか1項に記載の吸収性物品。

<18>

40

50

前記幅狭部の前記縦方向の長さ（ $L62$ ）は、前記幅広部の該縦方向の長さ（ $L61$ ）に対して、好ましくは 1.5 倍以上、より好ましくは 2.0 倍以上、そして、好ましくは 3.5 倍以下、より好ましくは 3.0 倍以下である、前記<17>に記載の吸収性物品。
<19>

前記幅広部の前記横方向への投影像と前記弾性部材における前記縦方向に伸縮可能な部分との重なり部の前記縦方向の長さは、該弾性部材における該縦方向に伸縮可能な部分の該縦方向の全長（ $L53$ ）の 15% 以下である、前記<17>又は<18>に記載の吸収性物品。

<20>

前記幅広部は、前記補助吸収層の前記縦方向の腹側端側が、該縦方向の全長にわたって前記横方向の長さ（ $W61$ ）が一定の幅一定部、該補助吸収層の該縦方向の前記幅狭部側が、該横方向の長さ（ $W61$ ）が一定ではない幅変化部であり、

前記幅一定部の前記横方向の長さ（ $W61$ ）と前記幅狭部の該横方向の長さ（ $W62$ ）との比率は、前者／後者として、好ましくは 1.2 以上、より好ましくは 1.5 以上、そして、好ましくは 2.5 以下、より好ましくは 2.0 以下である、前記<17>～<19>の何れか1項に記載の吸収性物品。

<21>

前記幅一定部の前記横方向の長さ（ $W61$ ）と、前記吸収性シートの該横方向の長さの最大値との比率は、前者／後者として、好ましくは 0.8 以上、そして、好ましくは 1.0 以下である、前記<20>に記載の吸収性物品。

<22>

前記幅狭部の前記横方向の長さ（ $W62$ ）と、前記吸収性シートの該横方向の長さの最大値との比率は、前者／後者として、好ましくは 0.5 以上、そして、好ましくは 0.7 以下である、前記<20>又は<21>に記載の吸収性物品。

10

20

30

40

50